



発行

兵庫県知的障害者施設協会

〒659-0015

芦屋市楠町16番5号 三田谷学園内

発行責任者 堺 執

TEL (0797) 22-5025

FAX (0797) 22-7885

印刷所 株式会社アカツキ印刷

障害者の胸の内を覗けば

兵庫県知的障害者施設協会副会長
三木精愛園 施設長 大原 悟



僕は、三木精愛園ではおとなしい方だ。先生からいつもガミガミ

小言を喰ったり、雷を落とされたりする者にくらべたら、僕などは優等生だ。

でも僕だって腹が立つ事もあれば、いつも偉そうにしている奴とは口も利きたくないし、顔を見るのも嫌になる。

如何なおしどり夫婦でも、二十四時間顔を付き合わずと鬱陶しくなり、やがて嫌な感じを抱き、まもなく相手の一寸した行動に腹立たしくなる。顔を見なければホットするらしいよ。僕にはそんな夫婦間の微妙な感情の動きは分からない。が、僕もそんな心境になる事が多いよ。何しろ八畳間に四人が寝起きするのだ。下半身の世話ができない者もいる。来る日も来る日も朝から晩まで同じ顔触れ

で、性格や欠点も知り尽くしている間柄だ。いまさら興味も関心もない。だから、気持ち次第では、ついつい喧嘩もするし、ひと暴れもしたい、ストレスは溜るばかりだ。

しかし、僕はストレス解消の方法が分からない。

大きな声を出したり、天上天下唯我独尊の気分で一人悦に入って何か言葉を発したりするときなどは、僕はすばらしく気分がすっきりするのだが、これを昼見境なくやると、どうも周囲には迷惑らしい。皆は嫌な顔をしている。先生の顔も何だか陰しくなる。

雨でも降らない限り、先生は僕たち五、六人で散歩に連れてってくれるが、その時は実に愉快である。でも毎日同じ道ではなあ。

先日は学生さんらしい若い女の人が、四、五日の間、僕の世話をしてくれた。見知らぬ顔だが、愛想のよい綺麗な人だ。こんな人が僕の大好

きなドライブに誘ってくれたらば、さぞかし晴れ晴れするだろうなあ。毎月お茶の先生が来園、茶の湯の作法よろしく抹茶と和菓子を取すが、腕白者も騒がし屋もこのときばかりは神妙な顔付きになるから茶の効用は不思議だ。毎日でも頂きたいが、そうもゆくまい。

地元の小学五年生三十人がお母さん達と一緒に陶芸教室に通って来るときは、大変賑やかで、愛想の悪い僕も思わず笑顔を見せるそうだ。

散髪屋さん、婦人会のお母さん方、ランドゴルフの老人会のおじさん達が来園するときは、何だかわくわくするのだ。

「未知との遭遇」は何ととっても僕にはストレス解消になるのだ。先生方には、僕のこの胸の内分かってほしいな。



いい友 いい愛 いい心

ゆうあいピック・茨城大会開催される

(第7回全国知的障害者スポーツ大会)

「いい友 いい愛 いい心」をテーマに、知的障害者の自立と社会参加を目的とした、スポーツの祭典「ゆうあいピック茨城大会」が平成十年十月十七日(土)、十八日(日)の両日にわたって、茨城県立笠松運動公園をメイン会場に開催されました。全国から約四千二百人の選手が参加し、七千人のボランティアが運営を支えると云う大きな大会でした。

兵庫県選手団は堺執団長(県知的障害者施設協会会長)以下、選手三十四人、役員三十一人の総勢六十五人の参加となりました。又、神戸市選手団は、選手三十二人、役員二十三人の総勢五十五人の参加でした。

兵庫県選手団は十六日(金)午前十一時十七分発の新幹線で新大阪を出発、神戸市選手団は同日の朝早く新幹線で新神戸を出発しました。

水戸駅には大会役員と学生コンパニオンの出迎えを受け、宿舍のホテルへそれぞれ案内してもらいました。十七日、笠松運動公園陸上競技場にて開催される予定の開会式が、あいにくの台風十号の接近に伴う風雨で



見事、金メダルに輝いた高等養護バレーボールチーム

間たちと「いい友 いい愛 いい心」をモットーに、精いっぱい競技することを誓います」と元気よく宣誓してくれました。

大会初日の競技は十競技のうち中止のソフトボール、フットベースボール競技を除いて八競技が各会場で実施されました。陸上競技場では、千五百メートル種目から、競技がスタート。兵庫県・神戸市の選手団の精鋭六十六人の選手は、二日間にわたり、陸上、水泳、卓球、ボウリング、フライングディスク、バレーボール、バスケットボールの七種目で悪条件の中、熱戦をくりひろげ健闘しました。

二日間の大会日程を終え、閉会式が笠松運動公園陸上競技場で行われ、各選手団は、ベートーベンの「交響曲第九」に合わせた観客の手拍子の中を整然と行進、式に臨みました。二日間燃えつづけた炬火が消される瞬間には、会場内が一瞬静まり返ったが、間もなく健闘をたたえる大きな拍手に包まれました。その後、大会旗が来年の開催地の高根県に手渡され終了しました。

後夜祭は縁日風の出し物が並ぶ会場で食べ物もたくさんいたっていて、祭り気分を満喫したあと、歌手の西田ひかるさんを迎えてのファイナルコンサート。兵庫県選手団も最前列に陣どり、華やかな舞台と一体とな

高円宮殿下夫妻のご臨席の中、茨城県選手団の代表二人が「全国の仲

る盛り上がりみせ、来年の再会を誓いながらファイナレを迎えました。十九日、兵庫県選手団はバスにて一路東京へ。浅草での短い時間の観光を楽しみ、新幹線にて、帰路に着きました。

最後に大会期間中、選手団のお世話や応援をして下さった大会役員の方、及び学生コンパニオンのボランティアの方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

一記 録一

(兵庫県選手団)

- 陸上 金8 銀6 銅7
- 水泳 金1 銀1 銅4
- ボウリング 銀1
- フライングディスク 金1
- バレーボール 金1

※大会タイ記録

蔵本のお子さん(ななくさ育成園)

女子走高跳び・壮年組

0 m 90 cm

(神戸市選手団)

- 陸上 銀1 銅1
- 水泳 銀1 銅3
- 卓球 金3 銅1
- ボウリング 銅1
- フライングディスク 銀1
- バスケットボール(男子) 銅1
- バスケットボール(女子) 銅1

(県施設協会スポーツ委員長

ななくさ育成園 施設長 井上久芳)

兵庫県の知的障害者施設保護者協議会 ―組織等についての私見―

兵庫県の知的障害者施設保護者協議会
事務局長 梶田 源一郎



皆様方の大切な事務局をお預かりいたしましたし、ましてはや一年になろうとしています。この間、な

にもわからないままに兵庫県知的障害者施設保護者協議会（以下保護者協議会という）会則検討委員会の事務局を担当いたしました。ある委員のご発言の中に、「まず、本会発足の原点に帰り、そこから検討を始めること」とのご指摘がありましたので、ルーツを探るため、「兵庫県手をつなぐ育成会四十年のあゆみ」をひもといてみました。そこには、「昭和三十一年に兵庫県手をつなぐ親の会が設立され、我が子のための療育施設がほしい」という親たちの強い願いが運動となり、昭和四十二年には、県下に十八施設が建設された。翌四十三年、施設で生活する知的障害児の福祉を向上させるために保護者会が結成された。爾来、年々施設は充実し昭和四十六年には三十五施設となり、県育成会の保護者部会として位置付け活動を展開してきた。さらに平成五年には、規約を全面的

に改正し、活動に見合う会費を増額し再出発する」と記され、運動方針が、つぎのように書かれています。

- 一、保護者会の連合体として共同で福祉の向上を図る。
- 一、福祉四団体の一員として、協力を増強する。

一、県育成会の施設部会としての位置付を確認し育成会活動に積極的に参加する。

- 一、県愛護協会の活動に協力する。
- 一、施設利用者の権利擁護に取組む。
- 一、県内外の福祉大会、研修会に積極的に参加する。

当時会則案を起草された方々の熱い思いが文面の隅々から強く伝わってきました。

さて、社会福祉のあり方が激変するなか保護者協議会は発足当時の理念に思いをいたし、会員の期待に応える具体的な活動を展開していかなくてはなりません。予算や事務局体制が充実していない現状のもと必要最小限の事業事務を的確に遂行することが求められます。

そこで、本会の目的に照らし事業の柱を次のように整理してみました。

・研 修

中央研修・ブロック研修の充実

・情報提供

「施設保護者だより」の充実

・交 流

各種大会の共催・参加

・権利擁護委員会の発足

実態調査・的確な対応

これらの事業を推進する組織の強化について考えてみますと、まず県下の全施設が保護者協議会に加入することを基本として、単位保護者会の充実を図るため全ての会員が育成会に積極的に加入することが望まれます。入所施設所在地の育成会に加入するか、保護者居住地の育成会に加入するか。県外からの入所であればどうするか。さらに地域育成会、保護者会双方の負担金の問題、加入後の保護者会活動のあり方等々、課題は山積しています。時代は、地域と共存する施設、地域生活を共有する生き方を求める方向に動いています。これらを実現するために施設における保護者会活動は新しい局面を迎えることになりましょう。

次に、厚生省は、平成十年度より、都道府県に対して「障害者一〇番」を設置すること、権利擁護機関の設置を指導しています。兵庫県においても、平成十一年度には具体案が提示されるでしょう。

件、昨年の東京都分寺事件等々枚挙にいとまがありません。社会福祉制度が大きく変貌する中、従来の措置制度が選択制度へ変わることは施設利用者には直接的な係わりがあるだけに無関心ではいられません。一人の犠牲者もださないうために、保護者協議会の存在が問われることとなります。その意味で保護者協議会の中に権利擁護委員会を設置することは必然且つ喫緊の要請であります。

最後に事務局体制であります。保護者協議会発足の経緯、理念を前提に現状を認識するとき事務局を育成会の中に置き、事務局長が育成会と保護者協議会双方の事務局長を兼務することはお互いに益するところがあります。しかし事務職員は、現行の育成会職員による兼務体制を改め、専任の職員が事業事務を担当することが必要と考えます。その理由は、一、二四施設、六千五百人に近い会員を要する団体の事務事業を兼務で処理しきれないほど安易なものではないと考えるからであります。

いま一つ大切なことは、事務局と会員の皆様との距離を縮めることでもあります。それは、会員の皆様がいっつも出入りしやすい温かい雰囲気、漂う事務局づくりであり、片や皆様の万相談に応じられる職員の専門性・信頼性を高めることであると認識しております。ご批判のほどよろしくお願い申し上げます。

研修委員会報告

「地域生活、療育を考える」研修会報告

研修委員長 婦木 治

平成十年十二月一日に姫路市自治福祉会館にて八十名を越える参加者のもとにこの研修会を実施しました。研修会の目的としては以下の通りです。

「私達施設関係者（特に入所施設の関係者）は、施設の人的物的援助、サービスを施設入所利用者だけに提供していればよいと考えているわけではないが、三六五日、二十四時間の安全と安心を最優先に考え、どうしても施設機能を地域で暮らす人達に向けられていない現実が多く見受けられる。

通所施設においても、土、日や祝日そして夜間の支援など課題が残されている。

誰もが住み慣れた地域で親しい人々と暮らすことを望んでいるのは当たり前だが、実際には支える施策、メニューが希少で短期入所すら受けていない例もある。そこで親の会では宿泊訓練ホームなどの運営や入所施設建設へむけて

情熱を注がれているところもある。

このような状況を踏まえて、施設関係者をはじめ地域生活者とその家族と共に、地域生活者が地域で生活していくための受け皿や選択肢の数を増やしていくこと、また施設関係者がどのように関わり支援していくかを考える。そして障害児者地域療育等支援事業のコーディネーター（四名）により活動の様子や課題について話し合ってもらおう。」

まず第一に滋賀県甲賀郡障害者生活支援センター「OPEN SPA CE れがーと」の中島コーディネーターにより今回の研修会の基調講演及び報告として①福祉圏域で進める障害者施策②「れがーと」の活動について③甲賀郡地域ケアシステムについてその成果と課題についてなどを語ってもらいました。その内容は、施設からコーディネーター、コーディネーターから市町村域、市町村域から県域へと調整会議を通して実の上

手く機能しています。ここまでの法人、施設の努力と福祉に関する意識の深さ、知識のレベルの高さを感じました。その上、当事者ニーズに敏感に対応している様子が実によくうかがえました。

次に、シンポジウム「地域で生活していくためのいろんなニーズとその具体的支援策そして課題」―施設で地域で何ができるのか―について、希望の郷蓬菜施設長にコーディネイターを中島さんに助言者をお願いし、パネラーとして施設療育等支援事業のコーディネーターの希望の郷大西さん、愛心園の中川さん、砂子療育園の川内さんそしてルネス花北の嘉ノ海さんによりそれぞれの活動内容や具体例をあげ報告してもらいました。

施設により多少の違いはありますが愛心園では窓口とサービスを分け職員個々に実態を知らせ活動を円滑にしています。この事業を受けたことにより多様なニーズに 대응していく努力の中で、施設としても確実にレベルアップしています。希望の郷ではホームヘルプサービスも実施しています。基本は地域支援に役立ていく心構えさえあればこの事業はやっていけるといふことです。砂子療育園では療育訪問の際医療を持つチー

ムの誇りを持ち、常にニーズの把握とかゆいところに手が届くようにシステムにない訪問リハビリや訪問看護を実施しています。最後に嘉ノ海コーディネーターはこの事業を施設の事業としてとらえるのではなく、施設はあくまで拠点であって地域の事業としてとらえるべきで、県域と市町村域が混ざるなかで行政の支援の薄さをどのように共同してやっていくかに大きな意義があるということでした。

今回で三回目になるこの研修会に施設関係者だけでなく、各ブロック育成会や行政担当者が多数参加され熱心に研修されている姿が印象的であった。

県下でこの事業を実施しているところは六ヶ所です。この事業の目的をさらに理解し拡がりをみせてもらいたいです。



平成10年度

「愛護の集い」

—あなたが歩く道だから—

恒例の「愛護の集い」が九月二十五日(金)県立のじぎく会館に於いて開催された。育成会三十七名、保護者一六四名、施設からは一一七名、また一般から十八名の合計三三六名が参加し、のじぎく会館の大ホールを埋めつくした。

定刻の十時に始まり、本協会の堺会長の挨拶に引き続き、行政・関係団体の来賓より祝辞を頂戴した。その後我々には既にお馴染みの新井宗平氏による楽しい歌とおしゃべりを堪能した。



昼食、休憩の後、「生きがいの創造とそのマネジメント」私たちは、なぜここに生きているのか?」と題して、福島大学経済学部助教・飯田史彦先生による貴重な体験を交えた興味深い講演を拝聴した。

最後に大会宣言を採択し、池田保護者協議会会長の挨拶により閉会した。

◎大会宣言

新しい世紀を目前に控えた今、社会情勢の変化とともに社会福祉のあり方も大きく変わろうとしています。このような中、知的障害者福祉関係の四団体が一堂に会して、平成10年度「愛護の集い」を開催しました。私たち四団体は、知的障害者が地域や施設の中で人権が護られ、かつ安全快適に過ごせるあたりまえの社会を実現するために一層の協力と努力をすることを誓いあいました。ここに熱い思いを込めて、関係機関に対し次のことがらを要望します。一、ともに支えあって生きる地域づくりを推進すること。

二、施設利用者の環境改善を図るための人的、動的な条件整備充実を図ること。

三、知的障害者に対する偏見の除去、人権侵害に対する擁護システムの早期確立を図ること。

四、知的障害者のスポーツ・文化活動振興のための機会と場の充実と指導者の確保を図ること。

福祉四団体

賀詞交換会

平成十一年福祉四団体賀詞交換会が、一月十四日に楠公会館において、来賓十七名、施設職員六十五名、育成会四〇名、施設保護者・互助会一一八名の計二四〇名の参加を得て、盛大に開催されました。

兵庫県知的障害者施設利用者互助会の福田理事長の開会宣言で始まり、阪神淡路大震災で不幸にして犠牲になられた方々に対して、兵庫県社会福祉施設経営者協議会の金附会長の発声のもとに黙祷が捧げられました。

続いて、主催者を代表して兵庫県知的障害者施設協会の堺会長より「依然として厳しい社会経済情勢の中、知的障害者の福祉向上に向けて、困難な道ではありませんが、



福祉四団体が車の四輪駆動のごとく力を合わせ、よりパワーアップして困難を乗り越えましょう。」と挨拶がありました。

今年も福祉四団体にとって関係の深い、常日頃力強いご支援を頂いている来賓十七名にご出席頂き、その中から代表して三名の方からご祝辞を頂戴しました。衆議院議員土肥隆一氏、兵庫県健康福祉部古西保信次長、神戸市保健福祉局障害福祉部育成課安井昌義課長、三名の方それぞれのお立場(国・兵庫県・神戸市)から、「平成十一年度障害福祉施策推進状況について、又、まもなく迎える二十一世紀の社会福祉の構築をめざし、行政と施設、地域社会がより一層の連携を図ることが重要であり、そのためには福祉四団体がさらに発展することを祈念します。」とご挨拶を頂きました。

そして、兵庫県手をつなぐ育成会の藤原理事長の乾杯の音頭によって祝宴へと移りました。年々回を重ねる度に、参加者同士の会話も弾み、和やかな雰囲気の中にも連帯感が強くなっていくように感じます。

最後に、兵庫県知的障害者施設保護者会の池田会長により「知的障害者の福祉向上、充実に向けて、お互いに頑張りましょう。」と締めくくられ終了致しました。

阪丹但 ソフトボール大会

平成十年五月に尼崎市で開催された第七回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会のソフトボール部門は雨天によるグラウンドコンディション悪化のため実施できませんでしたが、後になって、当日参加を予定していたチーム等からソフトボール大会の開催を望む声が高まったため、兵庫県下の施設及び育成会に案内をだしたところ、平日にもかかわらず七チームの参加がありました。

大会当日は朝から雨がぱらつく天候でしたが、開会式には曇り空に変わり、後に晴れ間が見えるようになりました。

時折得点板が倒れるような強い風が吹く中、数々の名場面が繰り広げられ、選手はもとより応援する人やスタッフも楽しい一時を過ごしました。トーナメントを終えたチーム同士が空いたコートで非公式(?)に試合をするなど、この日は好きなソフトボールを満喫していました。

一位から七位迄を決めるため全九試合という過密スケジュールとなりましたが、試合は順調に進み予定時間内に決勝戦まで終えることができました。

閉会式には全チームが参加し互

の健闘を讃え合いました。

日程：平成十年十一月十七日(火)

会場：三田市城山公園グラウンド

主催：阪丹但地区知的障害者施設協会、同協会職員部会

後援：兵庫県手をつなぐ育成会

協力：兵庫県知的障害者施設協会

参加チーム及び大戦結果

①共に歩む会

②一羊会

③三美学苑

④上野丘さつき会

⑤春日育成苑

⑥三田谷治療教育院

⑦沢谷荘



(宝塚さざんかの家 田畑)

全国社会福祉軟式野球大会 県福祉野球秋季大会

平成十年七月十七日に、第十五回全国社会福祉軟式野球近畿予選大会が、大阪富田林球場、兵庫香寺球場の二会場で開催されました。近畿から全国大会に出場出来るのは二チームとあって、各球場とも白熱した試合が行なわれました。その結果香寺球場で優勝した神戸グリーンズが、全国大会へのキップを手に入れました。全国大会は、全国社会福祉軟式野球連盟、福祉新聞社主催で、十一月三日から三日間、岐阜市の長良川球場をメインで開催されました。

一回戦、二回戦を接戦の末勝ち上って来た神戸グリーンズは、準決勝で、北海道の蛇田幸清会に、逆転負けで三位となりました。

「一回戦は、どうしても長良川球場で野球をしたいという思いで勝ったのですが、準決勝では、時間切れ寸前での逆転負けでした。でも、この試合で来年にむけ何かを感じました。最終的には、どのチームも差はなく、近畿大会で勝つ方が難しいです。」と、神戸グリーンズ代表、玉津むつみの家の山本氏。

今年、四国の愛媛県での開催が予定されています。全国制覇にむけてがんばってほしいです。



いっぽう兵庫県知的障害者施設協会主催の福祉野球秋季大会は、平成十年十一月二十八日に、西脇市民球場で小雨まじりの悪天候の中、なんとか開催することが出来ました。六チーム約九十人の参加となりました。準備から審判、スコア、グラウンド整備まで、自分たちで行いみんなで野球を楽しむ大会となりました。「優勝は、時間がなくなりジャンケンで決まりましたが、勝敗よりみんなでいっしょに何かを楽しむことが出来、私にとっては有意義な時間でした」と、優勝した播淡ブルータス代表、協和学園栗林氏。

この大会から、新たに、三田こぶしの園が加盟され、現在九チームが登録されています。勝つても敗けても、称えあうことが出来、今年もみんなで楽しい野球をやりたいものです。

保護者の声

願い

あかりの家 池内 登喜



先日、賀詞交換会に出席した時、同じテーブルの方が「近年保護者会に出席する人が減って来た。親の高齢化にともない又、世代交替などもあつての事とも思う。それで欠席のお宅をたずねてみようと思つている」と話されているのを聞きました。

子どもの長男がお世話になつてます「あかりの家」は園生は今と比較的若いものの、親は確実に年を重ねており遠からず同じ様な事が出て来る、いえ、もう心配されている保護者もおられ、人ごとではないと感じました。その時、「あかりの家」で昨年末から始まつています「棟別懇談会」の事を話した様に思います。園と保護者会共催の「棟別懇談会」では個人的な質問や園に対しての要望など職員の方々と保護者として食事しながらの熱のこもつた話し合がなされております。そして、親の願いとして子供達が元気である事が一番、又、その最後の事まで及んでいきます。親と子が共に元気で暮らせる事は同時に園が元気で職員が元気で楽しく働ける事だと思ひます。その為に園と保護者会が歩調を合

わせ、心を通わせる事と思つのです。そして、私達の出来る事から(園内整備他)手助け出来たらと思ひます。目ざましく福祉施策が変る中、内容を深く知り、それをどう生かせるか勉強する事も大切だと思ひます。

内の学びと共に「あかりの家」は自閉症関連の施設ですから自閉症に対しての理解を施設交流や内外のバザーによつて広げて行きたいと思つのです。本当に個性豊かな彼らですから、その個性を持つて(認めて)いい人生を送れたらと願つております。ハンディがあるからこそ皆それぞれ役割を持つて生れて来ているのだと子供達に接して改めて思ひます。我家の場合、主人や二男と大声で言い合つても悲しそうな長男の目を見れば少し冷静になろうと反省します。家族と家族をつなぐ役割を見事に果たしている、有難いと思ひます。こんな混乱した時代だから、「二人ずつ丁寧に向き合う。」という「あかりの家」のモットーが本当に大切とひしひし感じます。

又、願ひは叶う事を今、実感して感謝しております。金銭に関する問題もありまして糸口をつかもうと、あれこれ考えを巡らせておりましたが、「どうぞ」の声で救われました。さあ元氣を出して今年も歩んで行きましよう。

保護者の声

「子どもの春ご褒美」

養徳会のみと青年衆 秋山 昭治



忘れもしない四十年前、生後二年足らずの発育優秀の赤ちゃんは、或る日、原因不明の光熱を發しました。が近所の主治医の初歩的誤診により適切な医学的手当の機会を逸し生死をさまよい、幸にして一命はとりとめました。がその段階でその子は、社会人として自ら伸びる可能性を奪い去られ、現在知的障害者として当施設にお世話になつています。

何せ田舎のこと近代的医療施設、特に今のような救急医療体制の未整備の当時の状況としては、なすべき対策を採り得なかつたとはいえ結局は取り返しのつかない「親の責任」であることは間違いありません。彼は現在四十二才に達しましたが至極素直に肉親思ひの心やさしい男性として安定した日常生活を送らせていただいていることはせめてもの慰みと有難く思つているところであります。養徳会は「天理教の教え」を基本理念とし関係する職員の皆さんは本当に暖かく一生懸命頑張つていただいております。利用者は概して伸び伸びと明るく、そして仲よく日々を

送つておりました、有難く感謝の他ありません。

しかし、利用者も高齢化するに加えて私共保護者もこれに輪をかけて高齢の一途を辿つており、保護者出席日にもやむを得ず出席できない保護者が次第に増加の傾向にあり、心を痛めております。私もすでに古稀を超えておりますが彼のために保護者出席日には常に夫婦で出席するよう努めるとともに、他家へ嫁いだ娘夫婦も運動会などには孫を連れて参加するようにしております。

ただ民営の社会福祉法人のこと、施設建物もかなり老朽化し、近き将来建て替えの準備があるようですが、何せ資金の壁が横たわつております。「何とかもう少し利用者が明るく安全に快適な日々を暮らせる環境づくり」を実現することはできないものかノと痛切に感じております。この子らには社会通念上の自主独立、結婚生活などの可能性は殆んど閉ざされていのが現実です。この子らにとつてはまさに「春よいずこ」ですが、せめて日々の暮らしを享受し、自己の個性を伸ばし、集団生活での友情を大切にし、心豊かなぬくもりのある日常生活を営むための環境の実現が当面何より重要なことと私共保護者の切なる念願であり努力すべき課題であります。

職員便り

「コミュニケーション」

姫路市総合福祉通園センター

中島 康裕

私は車が好きです。車を運転することが好きですし、車そのものが好きです。

今、世の中には多種多様の車が溢れかえっており、また人々の車に対する思いも千差万別です。車に興味のない人もいれば、移動手段の道具としか思っていない人もいます。しかし、私は車が好きです。

そんな私が乗っている車は英国ローバー社の「ミニ」という車です。この車は、四〇年前に生まれました。時代の流れによる多少の改良が加えられてはいるものの、基本的な構造やデザインはほとんどデビュー当時から変わっていません。大きさは国産の新型軽自動車よりも小さく、驚くほどの性能を持っているわけでもありませんし、現在の日本車のように車検に出すまでメンテナンスフリーというわけにもいかず、オイル交換等定期的に世話をしなければなりません。

では、なぜそのような車を私は購入したのか、また四〇年間も生産され続けているほど人々に愛されてい

るのか。私はその理由をこの車がしっかりとしたコンセプトを持って生まれてきた車であり、とても人間的な車であることだと思っています。

先程少し触れたように、この車は基本構造が古く現代の車に比べるとシンプルです。しかし、シンプルながらもエンジン音や排気音、タイヤからシートやハンドルに伝わってくる振動などを自分で感じるということによって、エンジンの回り具合や吹け具合、タイヤやサスペンションの応答性など車の調子を把握したり、加速感や旋回性などきびきびとした走りや運転する楽しさを得ることができ、またパーツも豊富で、性能アップやドレスアップなど自分なりの一台に仕上げる事が出来る数少ない車の一つなのです。手間をかけなければ傷みやすくマイナス面も多々ある車ですが、手間をかければこちらの思いが伝わり、元気に応えてくれ、コミュニケーションが出来る現代の車にな

い多くの楽しみを今でも持っている車なのです。

機械は年々進歩し続け、便利(手間のかからない)になっていきます。その中で、人々は手間をかける素晴らしさを忘れ、メッセージを受け取るアンテナを弱らせ、上手くコミュニケーションをとれなくなっているのではないのでしょうか。機械に対して

だけではなく……。

日誌抄

9月4日	第2回役員会 (三田谷学園)	9月18日	施設保護者協議会 (但馬・丹波地区研修会)
8日	児童通園部会研修会 (神戸市)	24日	日本愛護組織委員会 (エニートピア篠山)
8日	日本愛護組織委員会 (東京)	25日	施設保護者協議会東・北播磨・淡路地区研修会 (グリーンピア三木)
10日	施設互助会給付審査会 (東京)	26日	児童通園部会公開保育 (姫路・つくし児童園)
11日	第2回日韓社会福祉交流推進委員会 (奈良)	26日	近畿地区施設長会議 (奈良)
13日	施設保護者協議会 (西・中播磨地区研修会)	27日	施設保護者協議会阪神地区研修会 (いたみホール)
21日	施設互助会理事會 (西脇市民球場)	28日	福祉野球秋季大会 (西脇市民球場)
25日	愛護の集い (のじぎく会館)	12月1日	施設互助会理事會 (地域生活と療育を考える)
28日	播淡地区職員研修会 (姫路市自泊福祉会館)	10日	研修会 (姫路市)
29日	施設保護者協議会理事會 (姫路市自泊福祉会館)	10日	打ち合せ (加古川市)
30日	施設保護者協議会理事會 (姫路市自泊福祉会館)	11日	施設保護者協議会中央研修会 (泉民会館)
10月6日	全国職員研究大会 (徳島)	13日	近畿地区通勤寮本人部会 (京都タワーホテル)
9日	ゆうあいピクニック役員会議 (近畿施設協会役員会)	15日	近畿地区施設協会役員会 (京都タワーホテル)
12日	阪丹但地区施設長会 (三田市)	1月8日	第4回役員会 (三田谷学園)
15日	授産施設運営協議会 (京都)	11日	新年福祉の集い (新神戸オリエンタルH)
16日	西日本大会 (茨城県)	13日	施設保護者協議会会則検討委員会 (楠公会館)
19日	ゆうあいピクニック茨城大会 (茨城県)	14日	賀詞交換会 (楠公会館)
21日	阪丹但地区職員研修会 (三田市)	17日	震災追悼式 (県公館)
22日	全国白閉症者施設協議会 (舞子ビラ)	21日	日本愛護組織委員会 (東京)
27日	全国会長会議 (三田谷学園)	23日	通所更生部会施設長研修会 (東京)
11月2日	日韓社会福祉交流セミナー (韓国)	27日	授産部会職員研修会 (加古川市)
9日	播淡地区職員研修会 (姫路市自泊福祉会館)	28日	ゆうあいスポーツ大会申込説明会 (加古川市)
11日	第3回役員会 (三田谷学園)	2月3日	播淡ゆうあい文化祭 (姫路市)
14日	ひょうご・ゆうあい音楽祭(やしろ国際学習塾)	9日	近畿地区職員研修会 (滋賀県)
17日	全国事務局長会議(東京)	10日	施設互助会理事會 (滋賀県)
	ソフトボール大会 (三田市)	25日	全国種別協議会 (東京)